

## ジオ鉄を楽しむ - 5.JR 北海道富良野線

### Let us Enjoy Geo-Tetsu - the Fifth Geo-tour through Train Windows, JR Furano Line in Hokkaido

安田 匡<sup>1\*</sup>, 藤田 勝代<sup>2</sup>

YASUDA, Tadashi<sup>1\*</sup>, FUJITA, Masayo<sup>2</sup>

<sup>1</sup> 株式会社田宮設計事務所, <sup>2</sup> 公益財団法人深田地質研究所

<sup>1</sup>Tamiya Civil Eng. Design Office Co., Ltd., <sup>2</sup>Fukada Geological Institute

#### 1. ジオ鉄の活動と目的

「ジオ鉄」とは、身近で安全な公共交通機関である鉄道を利用して、誰もが気軽に楽しみながら地質地形など自然や地球環境のことを学ぶ活動の呼び名である(加藤ほか,2009)。ジオは地球を意味する「Geo-」から、鉄は鉄道そのものの意と、鉄道愛好家の愛称「テツ」にちなんで命名した。筆者らによるジオ鉄の取組みは今年で4年目を迎え、深田地質研究所を中心に鉄道を愛する地質技術者が集まって普及活動を継続している。ジオ鉄では鉄道を通じて「見る」「触れる」「感じる」ことのできる地質・地形遺産やそれらと深く関わる鉄道施設や廃線遺構、さらには文化遺産を「ジオポイント」として選定し、一般の人向けに専門家の解説で見どころを紹介する。ジオ鉄の旅を通して鉄道旅行の新しいスタイルを楽しんでもらえたらと願っている。本稿ではジオ鉄第5路線となる「JR 北海道 富良野線」のルートを紹介する。

#### 2. ジオ鉄を楽しむ 第5路線 JR 北海道富良野線

##### (1) JR 北海道富良野線の概要

「ラベンダー」のシンボルカラーで親しまれる JR 北海道富良野線(明治33年8月全通)は北海道旭川市の旭川駅と同富良野市の富良野駅を全長54.8kmで結ぶ非電化単線のローカル線である。列車本数は1~2時間に1本であるが、旭川-美瑛駅間は30~60分に1本の頻度で運行され、地域輸送のほか道北の中核都市である旭川への通勤通学路線の役割を担っている。一方、観光路線としても親しまれ、車窓に望む美しい丘と背後に聳える十勝岳連峰の四季折々の風景を楽しむことができる。ラベンダーと大地を基調に彩色されたディーゼル機関車が展望客車を牽引する「ノロッコ号」(季節運行)は国内外の観光客に人気が高く、夏期に臨時開設されるラベンダー畑駅で乗降する姿は毎年の風物詩となっている。沿線の旭川、美瑛、上富良野、富良野には自然史・地学を扱う博物館や資料館も多くあり、気軽に学びながらジオ鉄を堪能できる路線としてもお勧めである。

富良野線は当初「十勝線」の名称で明治32年9月旭川-美瑛間で開業した。同年11月上富良野まで、翌33年8月下富良野(現:富良野)まで延伸し、旭川-下富良野間(現:富良野線の区間)の開通に至る。明治42年10月帯広釧路方面への延伸に伴い「釧路線」へ名称変更し、札幌から帯広釧路へ向かう幹線の一部となるが、大正2年11月滝川-下富良野間の短絡線(現:根室本線)開業により旭川-下富良野間は幹線から分離され、以後「富良野線」としてローカル輸送中心の路線となった。昭和33年、道内でも早期導入となったディーゼルカーの活躍は、沿線の利便性を図るために多数設置された仮乗降場の数が物語る。現在は駅へと昇格したが、当時の面影を残す短いホームと待合小屋だけの簡易な無人駅に、富良野線の開拓史が感じられる。

##### (2) 富良野線の恵まれた地形・地質遺産

富良野線は北海道中央部を貫く空知エゾ帯と日高帯の境界周辺を南北に走る路線である。富良野線の列車は上川盆地の南に位置する起点の旭川駅を出発すると、すぐに宗谷本線と分かれ忠別川を渡る。神楽岡駅を過ぎると緩い登り勾配でほぼ直線的に上川盆地の西縁を南下し、北美瑛から先は火砕流台地の末端を横切り小さいアップダウンを繰り返す。火砕流台地は約100~200万年前に十勝岳(標高2077m)の爆発で噴出し堆積した火砕流堆積物(溶結凝灰岩)からなり、沿線を彩る美しい丘の土台を成している。溶結凝灰岩は美瑛軟石とも呼ばれ石材として美瑛駅駅舎で使われているほか、その産状は美瑛駅ホーム西方の崖(元採石場)に遠望できる。美瑛駅を出た列車は火砕流台地を曲がりながら28.6%の急勾配を駆け上がり、美馬牛駅のやや手前で富良野線の最高地点(標高約290m)に達すると、そこを分水界として上富良野駅へ下ってゆく。沿線を見下ろす十勝岳は幾度も爆発の歴史があり、とくに富良野線開業後の大正15年5月24日の大正泥流は上富良野町に甚大な被害を与えた。三浦綾子の小説「泥流地帯」「続泥流地帯」に当時の融雪型火山泥流による被害と復興の物語が克明に描かれている。現在も噴煙を上げる十勝岳であるが、その周辺には白金温泉や十勝岳温泉があるほか自然硫黄鉱山跡もあり、青い池、白ひげの滝など特有の景観がつくられ観光地となっている。上富良野駅を過ぎると列車は活断層群によって形成された富良野盆地を緩い勾配で南下し、左手に十勝岳連峰、右手にラベンダー畑の丘と夕張山系を眺めながら絶景の中を進む。低山地状の「なまこ山」が見えはじめると終点の富良野駅へと到着する。駅で出迎える「へそ人形」は富良野に北海道の中心標が位置することに由来する。ここ富良野駅は根室本線への乗換駅でもあり、線路は富良野盆地に沿うように西と南へ分かれ延びてゆく。

# Japan Geoscience Union Meeting 2012

(May 20-25 2012 at Makuhari, Chiba, Japan)

©2012. Japan Geoscience Union. All Rights Reserved.



MIS32-P13

会場:コンベンションホール

時間:5月21日 12:15-13:15

キーワード: ジオ鉄, ジオポイント, 富良野線, 十勝岳, 火砕流台地, 融雪型火山泥流

Keywords: Geo-Tetsu, Geo -point, Furano Line, Tokachidake volcano, Pyroclastic plateau, Snowmelt type mudflow